

鷺住 鷺の棲む わしのすむ 鷺の棲む	筑波嶺 筑波の山の つくばのやまの 筑波の山の	裳羽服津乃 裳羽服津の もはきつの 裳羽服津の	其津乃上 その津の上に そのつのうへに その津の上に	率而 率ひて あどもひて 連れ立った	未通壯士之 娘子壯士の をとめをとこの 女と男が
往集 行き集ひ ゆきつどひ 集まって	加賀布嬬歌 かがふ嬬歌に かがふかがひに 歌うかがいでは	他妻 人妻に ひとづまに 人妻に	吾毛交牟 吾も交らむ われもまじらむ 私も交じろう	吾妻 わが妻に わがつまに 私の妻に	他毛言問 人も言問へ ひともこととへ 皆も言い寄れ
此山平 この山を このやまを この山を	牛掃神乃 領く神の うしはくかみの 支配する神が	従来 昔より むかしより 昔から	不禁行事叙 禁めぬ行事ぞ いさめぬわざぞ 咎めないことだ	今日耳者 今日のみは けふのみは 今日だけは	目串毛勿見 めぐしもな見そ めぐしもなみそ 見逃がせ
事毛咎莫 言ふも咎むな いふもとがむな 言っても咎めるな					万葉集 卷九 1759 高橋連虫麿